

リン ずっと黙ってるのね。お芝居見に行きたかったけど。仕事で無理だった。分かって。悪かったと思ってるわ。

コール 僕ちゃんと話そうと思うんだ。

リン 話す？

コール 僕の秘密を話すよ

リン どんな？

コール この先で事故があったでしょ

リン ええ。

コール 怪我をした人がいる。

リン ほんと？

コール 女の人。死んじゃった。

リン 大変！、見えるの？

コール 見えるよ。

リン どこに？

コール この窓の外に立ってる。

リン  
怖がらせないで

コール  
僕だって怖いよ。

リン  
何が。

コール  
幽霊達。

リン  
幽霊が見えるの。

コール  
いろんなこと僕に頼むんだ。

リン  
話しかけてくるの？何かをしようと。

コール  
身体のキズは幽霊のせいなんだ。何を思ってるのママ。僕を化け物だと。

リン  
ママの顔を見て。そんなこと絶対にないわ。分かった。

コール  
分かった。

リン  
少し考えさせて。

コール  
おばあちゃんが言った・・・蜂のブローチを勝手に持ち出して悪かったって。

リン  
何？

コール  
おばあちゃんよく僕のところへ来るんだ。

リン  
そんなはず無いでしょ。おばあちゃんは亡くなったの。

コール 知ってる。でも・・・

リン やめて頂戴・・・

コール ダンスを見たってママに伝えてって。こう言ったよ。ママが小さい頃おばあちゃんと言い合いになったんですよ。ダンス発表会の前だった。だからママはおばあちゃんがダンスを見に来てくれなかったって思ってる。でも、おばあちゃんは見に行ってたんだよ。気づかれないように隠れて。ママは天使のようだったって。

リン ……

コール こうも言ったよ。ママはおばあちゃんのお墓の前で質問をしたんですよ。おばあちゃん答えを伝えて欲しいって。質問への答えは「毎日、毎日だよ」だって。どんな質問をしたの？

リン 私を誇りに思う日があったって。